

本年度の結果		本年度の主な結果について				
	数学	領域別	数と式	図形	関数	データの活用
阿蘇市	50	阿蘇市	47.6	33.5	59.7	55.3
全国	52.5	全国	51.1	40.3	60.7	55.5
		観点別	知識・技能	思考・判断・表現		
		阿蘇市	60.9	25.9		
		全国	63.1	29.3		

○領域別には「データの活用」は全国と変わらず、昨年度から改善が見られた。
 ●領域別にみると、「数と式」「図形」の2領域に課題が見られた。
 ●観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも引き続き課題がある。
 ●事柄が成り立つ理由を根拠を明確にして説明したり、データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするなど記述式に、引き続き課題がある。

成果と課題

学力調査から

【定着している内容】

- 正の数と負の数の加法の計算をすることはできている。(6(1))
- 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することはできている。(7(3))
- グラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することはできている。(8(1))

【課題】

数と式

- 連続する二つの偶数を、文字を用いて式に表すことに課題がある。(1)
- 等式を目的に応じて変形することに引き続き課題がある。(2)
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに引き続き課題がある。(6(2))
- 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(6(3))

図形

- 回転移動についての理解に引き続き課題がある。(3)
- 筋道を立てて考え、説明することに引き続き課題がある。(9(1))
- 問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すことに課題がある。(9(2))

関数

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法をすうっ学的に説明することに引き続き課題がある。(8(2))

データの活用

- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(7(2))

質問紙調査から

【肯定的な回答の割合が高かったもの】

- 「数学の勉強は大切」「数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ」は全国を上回っている。

【課題】

- 「数学の勉強は好き」「数学の授業の内容はよく分かる」は昨年度よりも改善が見られたものの、全国よりも低く、課題である。

課題等に対応した改善指導内容

【授業改善】

- OPDCAサイクルによる課題探究型学習を進め、課題設定一見通し一解決する一まとめ一振り返りの学びを構築し、生徒主体の授業づくりを推進を図る。
- 生徒自らが「問い」を見だし、解決方法を自己選択、自己決定するなど見通しを持って課題解決に取り組ませるなど、個別最適な学びの充実を図る。
- 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにし、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考えたりするなど、数学的な表現を用いて説明する活動を充実する。
- 協働的な学びでは、数学的な見方・考え方を働かせながらこれまでの知識・技能をアウトプットして数学的に考える資質・能力を育成する。

【日常的な取組】

- 生徒主体の授業づくりを目指し、数学的活動を通じた活動や効果的なICTの活用を図る。
- 少人数指導や個別指導等で基礎・基本の習熟を図り、補充的・発展的な問題の指導を行う。

【家庭学習等】

- 授業内容に応じた課題を出し、AIDリルを活用した習熟や予習の充実を図る。